

6.16/2014 学修相談実施報告

来室学生

四回生 男子 二名

計二名

質問内容

四回生

1. 一人は研究論文の和訳と内容について、もう一人はこれまでに相談に来た英文講読の担当部分の残りについて、前回同様逐語訳する方法で見てほしい、という相談であった。

回答内容

四回生

1. 一人は5-6ページの英語論文を読んで内容を紹介することが課題らしい。そこでとりあえず **introduction** の一節を訳させたが、専門用語、学术论文の英語表現にまだ十分な知識がないため、内容が理解できる程度の訳にはなかなかならなかった。そこで、英文を読んで訳していくときに、わからない単語はできるだけ全部それらの意味と一緒にノートに書き留めて置くように勧めた。
2. もう一人の学生は、担当部分の後半の訳をかなりの部分見てみる事ができた。前半よりずいぶんよくなっている印象を受けた。

ところで、学生も私も電子辞書を使っているが、多くの学生が慣用句や成句表現の訳にてこずっているのに気が付いた。たとえば、“**in fact**”が訳せない、辞書に載っているでしょう、と言って“**fact**”を引かせたが、少なくとも学生の電子辞書にも、私の電子辞書(Casio EX-word)にも載っていない！ 例文のところを探してみたが、例文にもない！ こんなことがあるのかと、怪訝に思い、家に帰ってから、ずいぶん昔に使ったCanonの電子辞書を引いてみるとちゃんとでてくる。“**fact**”の項に“**in fact**”がでてくる。その電子辞書は辞書をそのまま電子化したようなものだ。勿論「辞書本」には“**in fact**”は太字で載っている。

そこで気が付いて、新しい電子辞書の辞書機能の「成句表現」で調べてみると、そこには“**in fact**”がちゃんと出てくる。他の成句も一杯出てくる。うーん。私が電子辞書の使い方に無知だっただけなのか。しかし、単語の意味を引くだけなら電子辞書が便利だが、英訳で頭をひねるには、矢張り昔どおり「辞書を引く」方がよいのかも、と便利さ故の欠点(?)を思い知った。次回からは紙の辞書も持参しようと思った。

以上

